

# なきごえ



1974

12

大阪市  
天王寺動物園協会

# 動物と私

— 熊と私 — 内田一郎

大正十三年四月、震災で荒れ果てた東京を後にして私は札幌へ行き、北大恵迪寮に入寮した。その直後の五月頃の事であったと思うが、寮生の山岳部の人達が大雪山を踏破しての帰来談が寮のコンパの席上であった。それは私共内地(北海道では本州の事を内地と呼んでいる。)から来たものには全く驚きであった。それによると一行が頂上の近くまで行った所、遙か前方の台地で熊が2・3匹遊んでいるのが見えた。これ以上進むのは危険だからと、その熊の一群の写真を撮って下山の途についたが、その途中一行は足の早いものと遅いものとの間に大分距離が出来た。その時突然両群の中間の熊篋の繁みから一匹の熊が現れて、人間共と同じ速度で同じ方向に歩き出した。後の一群は直ぐ気付いたが、前の一群は何も知らぬ。後の一群がおやぢ(熊)が出たぞと大声を上げて前の一群に知らせた。前の一群は熊に追いかけるに恰好なので必死になって駆け、持物を次々と投げ捨てて身軽になって逃げた。後の一群も進む事も出来ず進退窮っていた所、熊はヒョイと横の熊篋の中へ身を躍らせて姿を消したとの事、麓の村人の話ではその熊は恐らく未だ人間に会った事のない熊だろうとの事だったと。

その年の秋、我々寮生 240名は定山溪温泉で恒例の熊汁会ならぬ豚汁会を行った。或る土曜日の午後寮を出発した一同は三々五々徒歩で(当時既に貧弱な定山溪鉄道はあったが)定山溪へ向った。当時定山溪への道は部落と部落との間には熊篋を分けて進む様な所が多かった。我々は委員が所々に立ててくれた道標を頼りに進んだ。所が籬舞の少し手前の所の道標に『この辺は一週間位前から熊が出没するから注意せよ』とある。我々内地から来たものは胆を潰した。一同大声で寮歌を歌い乍ら危険箇所(?)を通過したのを覚えている。

昭和四年夏、私は友人五、六人と十勝の北海製糖へアルバイトに行った。職場は帯広から16軒程離れた上売買(カミウリカリップ)の農場である。相当な山奥と言う感じで、アイヌの男女が多勢働いていた。所がその部落が連夜熊に襲われるのである。一昨夜はA家の馬がやられた、昨夜はB家の犬が一晩中吠え続けたと情報が入る。村では既に秋田や山形から猟師を雇って連日敵を追っているのである。そんな所へ我々は行ったのである。今度こそはほんものの熊にお目にかかれるかと、こわいもの見たさ半分乍ら少々期待していた。さて仕事であるが始めはビートの間引き等を少々やらされたが、その能率た

るやとてもアイヌのおばさん達の敵ではない。その後は専ら薬剤撒布の方に回って働いた。さてビート畑であるが大体平均2~30ヘクタールもある広大な畑が、互いに隣接するのではなく、手頃な平地を選んで飛び飛びに諸所に散在している。従ってA耕地の仕事が済んで次のB耕地に移るのには我々は熊篋の被いかぶさった細道を登り下りして沢を渡ったりして近道をして次の農地に移るのが常であった。そんな或る日の昼下り

私等は一列になって農地移動をやっていた。その時突然先頭のもの『出た』と叫んだ。勿論『熊』である。我々は顔色を変へ踵を返していま来た道を逃げた。2-3百米も走った頃、先頭の方から違った違った熊じゃないと大声で連絡しているのが聞いて来た。やれやれと胸撫で下して又前進したのだが、やがて問題の場所に来て見ると樵夫や百姓が山仕事をする時の装束だが腰に熊の皮を巻いた一人の百姓が薄暗い狭い沢で此方に尻を向けて鎌を研いでいる、頃日来の部落の熊騒ぎもあり慌てた先頭の人を笑うわけにはいかなかった。

こんな熊との出あい(と申しても野生の実物にお目にかかった事はないのだが)を繰返して七年の札幌での学業を終えた私は昭和六年札幌を離れて、以後関西で暮している。青年時代の七年間を過ぎた北海道での想い出は懐しく、私の郷愁は札幌一校庭の一部に原始林を残していたエルムの学園一熊と進んだ。そしてあの年老いた熊でも何となくあどけなくとぼけた様な表情、そして無器用な仕ぐさ、牙もなく、猛獣でひげのないのは彼だけとか。然も又時には頗る自信ありげな挙措等、何となく憎めぬ存在である熊は私のペットになった。初め机の上の一匹の小さな熊の彫刻で満足していたが、その後機会ある毎に目標も定めずにボツボツと買い集め、又友人達が旅行の度毎にお土産に持ち帰ってくれたものが積み積って何時の間にか熊のミニコレクションと言う様な形態になって来た。勿論学問的に系統立ったものではないが、先日斯界の先輩から『君のコレクションは一つ一つ異質のものが感じられる特色がある』との御批評があった。



(東大阪市 開業医)

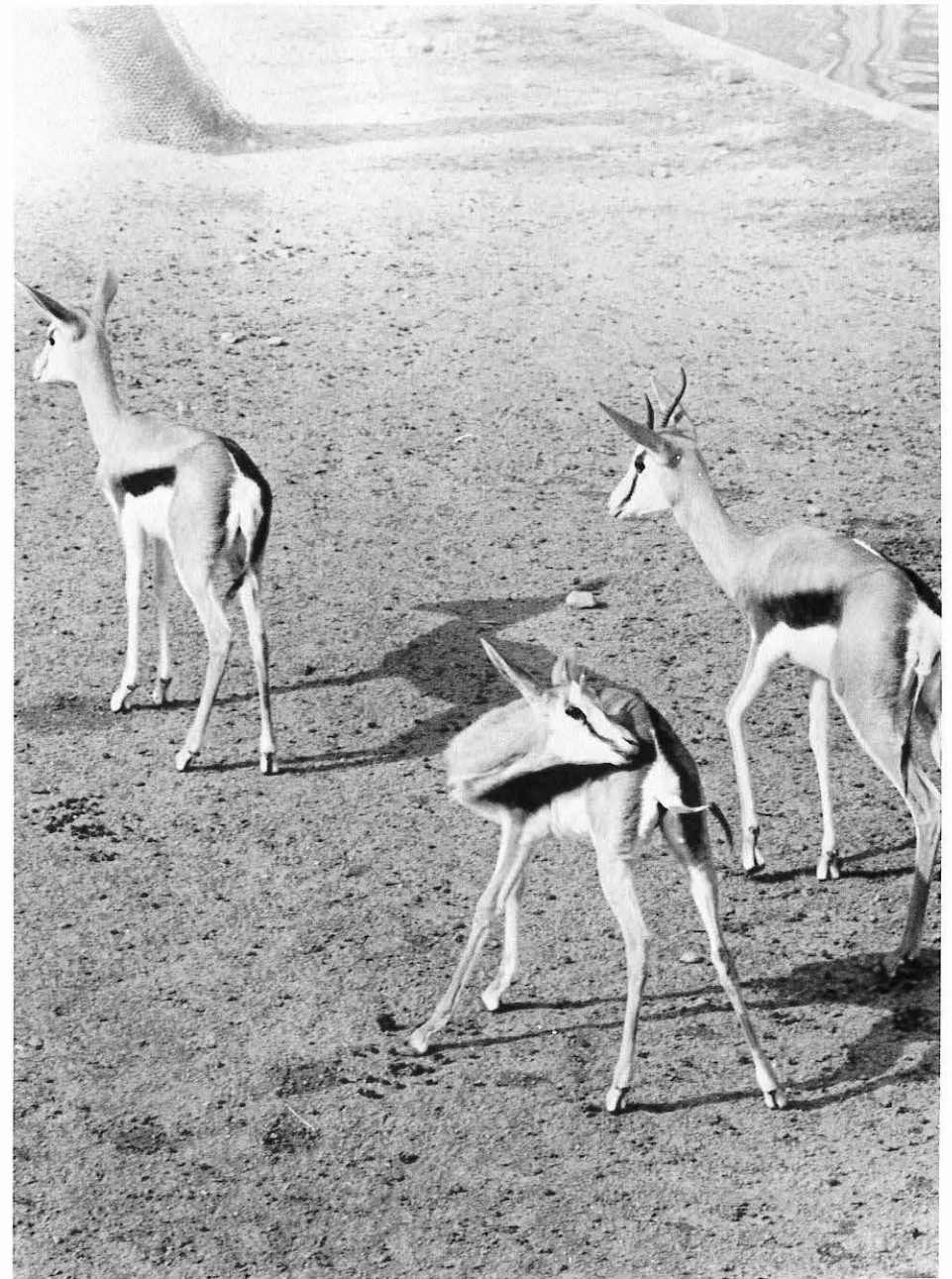
## なきごえ12月号もくじ

動物と私.....	2
トビカモシカ.....	3
動物園グラフ.....	4・5
動物園この1年.....	6・7・8・9・10
動物園ニュース.....	11

## 表紙の写真説明

“インドトキコウ”

この秋に入園した珍しいコウノトリの仲間です。トキに似た大きな口嘴があり、羽根の一部がピンク色で美しい鳥です。



## “トビカモシカ”

今年6月に2頭の赤ちゃんが誕生しましたが、その後すくすく成長してもうすっかり親と変らなくなりました。でも角だけはまだ、短いです。(左の2頭)



# 動物園グラフ



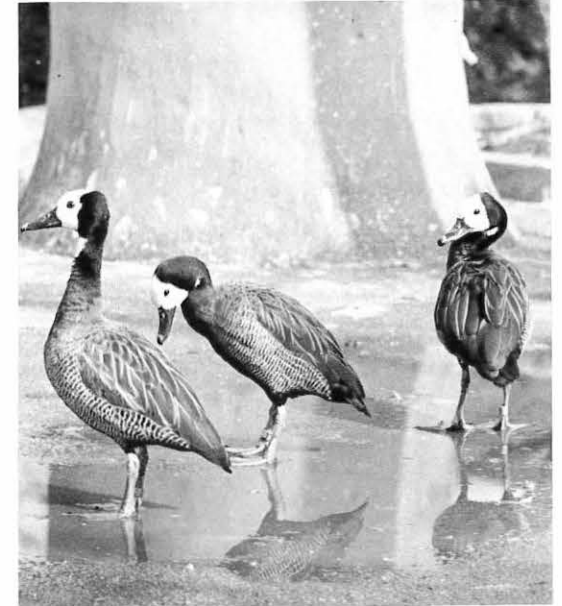
↑ミカドガン

## “新入園の水鳥たち”

秋から冬にかけては、水鳥たちの季節です。  
このシーズンを前にして、新しく水鳥の仲間が増えました。  
水禽たちの放養舎で元気に羽ばたきをしたり、泳いでいます。



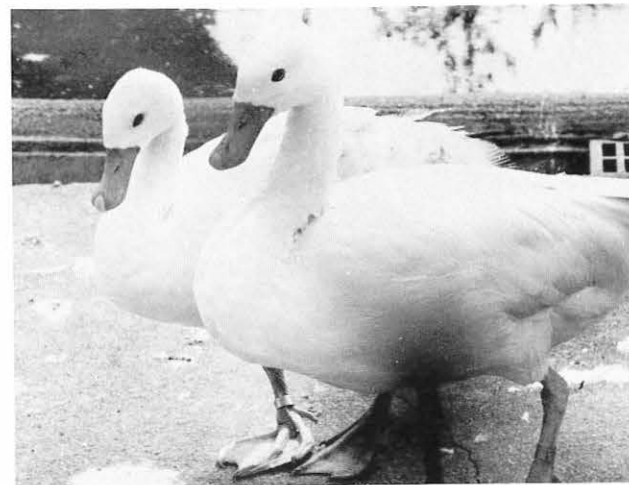
↑カオジロガン



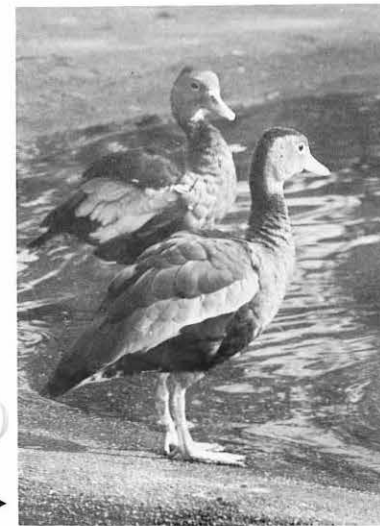
↑カオジロリュウキュウガモ



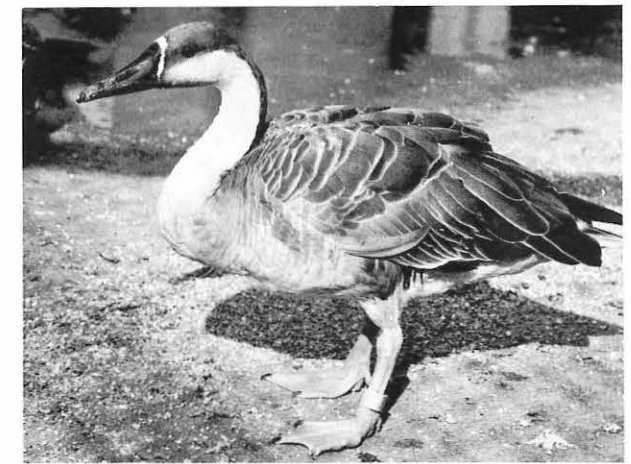
←コハクチョウ



↑カモハクチョウ



クビワコガモ→



↑サカツラガン

## 10・11月の動物園日記

- 10/28. トカラヤギとコビトコブウシが下痢気味です。どうやら昨日の日曜のお客さんが与えた餌を食べすぎたようです。
30. 今まで別々に収容していたオスとメスのラマをきょうから同居させました。
- 11/1. ライオン(ユキ)が2頭出産しましたが、1頭は惜しくも死亡しました。  
バクのオスが急な寒さのためか採食不振で元気ありません。
3. バクのオスに栄養剤、強心剤の注射を始めました。

4. フタコブラクダ(サクラ)がメスを1頭出産しましたが、全然仔の世話をしないため人工哺育することにしました。
6. オオキンランチョウ1羽、シロヒメウズラ2羽、シュバシキンセイ2羽の寄贈がありました。  
今年も例年通り、オオミズナギドリが保護され動物園にもちこまれるのが増えてきました。
7. 人工哺育中のラクダの仔がミルクを誤嚥し惜しくも死亡しました。  
フンボルトペンギンが気のう炎で死亡しました。  
ケープペンギンが下の口ばしを折ってしまい、ピ

- ンを入れて固定してやりました。
9. タマゴヘビが死亡しました。
11. チンパンジーのサクラが軽いカゼ気味なので治療をしています。
13. オオバタン1羽の寄贈がありました。
16. 治療を続けていたバクのオスがやっと元気を取り戻し食欲も出てきました。
18. カバ舎の寝室の暖房を開始しました。  
きょうオ三月曜日は休園日です。
19. シロキジが1羽死亡しました。
20. メガネカイマンが仲間と斗争して1頭死亡しまし

- た。
21. リカオンのオスが血尿を排出しているため治療を始めました。
24. ゴリラのゴロが少し下痢気味なので投薬をしています。
25. リカオンの血尿は一応止まりましたが、更に観察、治療を続けています。  
シマウマのオスが痙攣を起こしたので軽い運動をさせて治療しました。  
ニカクサイチョウ1羽が採食不振のため、強制さし餌を始めました。

# 動物園この1年

早いものでもう1年が終わろうとしています。今年最後の「なきごえ」ですので今年1年をふり返ってみることにしました。

## \*1974年生まれの動物達

今年も又たくさんの動物達が誕生していますので、その主なものを御紹介しましょう。

まず元旦早々、シロテテナガザルが1頭誕生しました。3年前にも1頭同じ両親から生まれており、2度目の出産でした。翌1月2日にはライオンが3頭生まれ、新春早々から好調なすべり出しでした。



1月18日にはビューマが2頭生まれました。この母親は今回が10度目のお産だけに、ベテランらしくうまく仔を育ててくれました。

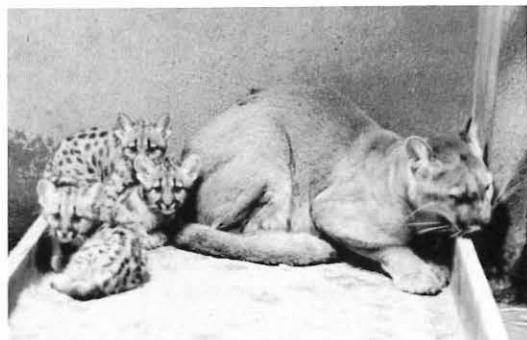
2月にはこれといった動物は生まれませんでした。3月に入って春の訪れと共にベビーブームが起きました。特に人工哺育が多かったため、研究室はまさに託児所の感でした。まず3月10日に生まれたライオンは母ライオンのユリが全く世話をしないため人工哺育しました。名前もマギーとつけられて丈夫に育ちました。3月23日にはアライグマが2頭生



まれましたが母親が異常にかわいがるため1頭死亡してしまい、残る1頭(メス)を人工哺育しました。これはロージーと名付けられ、今では母親と変わらない大きさにまで成長しました。3月25日にはキリンが1頭誕生しました。過去誕生した5頭全てがメスばかりでしたが、今回は初めてオスが生まれました。3月31日にはフンボルトペンギンが2羽ふ化しました。去年はせっかくふ化しながらうまく育たずやきもきしましたが、今年は順調に育ちました。まだ親の羽色とはかなり異なりますが、2年後位には親と同じ羽色になることでしょう。

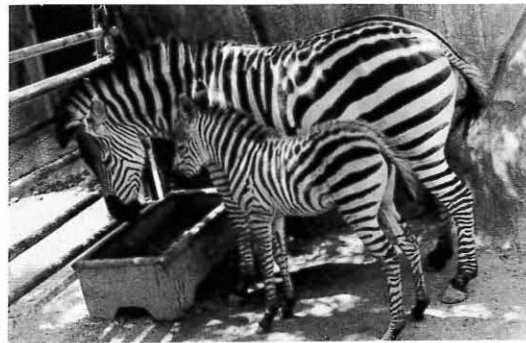


4月1日には去年に続きジャツカルが4頭(オス2、メス2)生まれました。去年は人工哺育でしたが今年は母親がうまく育ててくれました。4月7日



にはエチオピアライオンが2頭生まれました。同8日にはハナグマが5頭生まれました。3頭は惜しくも死亡しましたが2頭はすくすくと育っています。

4月28日にはビューマが3頭誕生し、今年1月生まれ2頭と合わせて一時は8頭もの大世帯となりました。この母親は昭和46年8月に当園で生まれたもので、初めてのお産でした。4月30日にはシマウマが1頭生まれました。母親は初めてのお産で心配でしたがうまく育てています。



5月には4月から産卵をしていたフラミンゴの内、キューバフラミンゴが5月21日にふ化したのを始めとして6月9日、12日に各1羽、共にキューバフラミンゴとヨーロッパフラミンゴの種間雑種が誕生しました。成長後どんな羽色になるか大いに興味のあるところで

す。そのほか、ふ

卵器に入れてあったキジ類の卵が次々とふ化し、60羽ほどのキジ類が誕生しました。その主なものはキンイロキンケイ12羽、キンケイ9羽、クジャク6羽、ギンケイ4羽、サンケイ3羽などです。

6月1日には今年2頭目のキリン



が誕生しました。今度もオスで、3月に生まれたのをキンちゃん、6月に生まれたのをギンちゃんと名付けました。2頭共元気一杯に走り回っています。

一方カモシカ園でも今年はお産が相つぎました。エゾシカ、ハナシカが6月から7月にかけて各4頭ずつ生まれ、スプリングボックが6月6日(メス)、6月29日(オス)に各1頭誕生しました。オリックスも同じ6月29日にオスが1頭生まれました。当園で誕生したオリックスはこれで6頭目です。又、ブラックバックも8月6日、10日に各1頭生まれました。



6月14日、15日と2日続いて各1頭ずつのアシカが誕生しました。2頭続けての、しかも久しぶりのお産だけに係員一同大喜びしました。1頭だけは惜しくも死亡しましたが残る1頭は母親と元気一杯に泳ぎ回っています。



6月23日にはヒョウが1頭(オス)生まれました。母親は斑紋の明瞭な、いわゆるハナヒョウですが、父親はクロヒョウのためどんな仔が生まれるか興味深々でしたが母親似の仔が生まれました。

8月2日にはトラ2頭(オス、メス)とライオン1頭(メス)が誕生し、トラの方は母トラの急死、ライオンの方は母ライオンの哺育能力なしのため、3頭一緒に人工哺育しました。

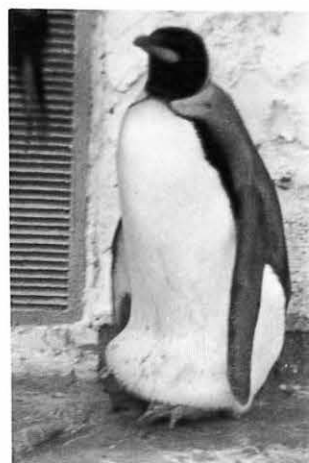


3頭共非常に仲が良く順調に育ちました。8月5日には国際保護動物のシシオザルが1頭(オス)生まれました。母親はこれが4度目の出産だけにうまく育てています。8月11日にはアグーチが2頭誕生しました。2年ぶりの誕生だけに喜びもひとしおでした。



9月4日には6月23日に17ヶ産卵していたスジオナメラの卵のうち7ヶがふ化し小へびが誕生しました。スジオナメラは中国、朝鮮、東南アジアに分布するへびで、日本での誕生は初めてと思われる。

以上が11月末現在までに誕生した主な動物です。これ以外にも出産、産卵しながら惜しくもうまく育たなかった動物もいくつかありますが、その内来年こそはと期待できるものをいくつかあげてみますと……鳥類ではシュバシコウが例年うまくかえっていたのですが(昨年7羽)、今年はフナが原因と思われる一種の食中毒で1羽もかえりませんでした。



6月18日にはオオヅルとキングペンギンが産卵しましたがオオヅルは食卵癖のため、キングペンギンは無精卵のため、うまくかえりませんでした。

哺乳類では3月22日にアナグマ2頭、4月12日にヌクテに4頭が生まれ、それぞれ人工哺育したのですがうまく育ちませんでした。タヌキ、ベンガルヤマネコも出産がありましたが発見時には惜しくも死亡していました。その他バーバリーシープ、エランド、フタコブラクダでも虚弱児の出産や流産などでうまく育ちませんでした。

した。

ハ虫類では今年も又、インドニシキヘビが産卵したのですが無精卵などでふ化しませんでした。

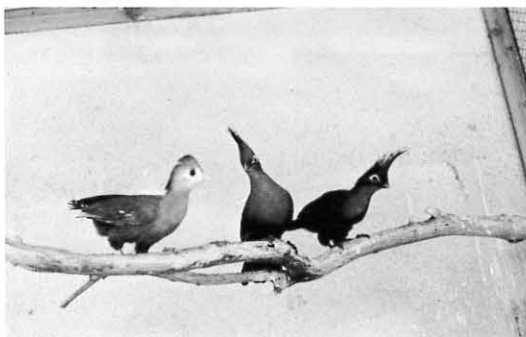
今年うまく育たなかったものは来年こそは今年と同じ失敗をくり返さないようにして、うまく育てたいものだと思っています。

#### \*1974年に新しく入園した動物達

今年は例年になく多くの珍しい種類の動物が新しく入りました。その内の珍しいものを紹介してみましょう。

まず鳥類ではカタジロワシが1番入りました。カタジロワシは日本の動物園でも飼育されているのはごくわずかな珍鳥です。現在1羽が趾瘤症を起こして治療中のため別々に収容していますが、将来は一緒にしてなんとか繁殖させたいものです。

熱帯産の色彩豊かなエボシドリは3種類入園しました。ニシズキンエボシドリ2羽、アカガシラエボシドリ1羽、ホホジロエボシドリ3羽の計6羽です。



水禽類ではクビワコガモ5羽、ミカドガン2羽、カオジロガン2羽、カオジロリュウキュウガモ4羽、カモハクチョウ2羽、コハクチョウ2羽、ヒドリガモ4羽、サカツラガン1羽などが入りました。全て水禽放養舎に収容していますが、元気に冷たい水の



中を泳ぎ回っています。コウノトリの仲間では日本の動物園では珍しいトキコウ2羽とアンデスブロンズトキ3羽が入りました。

オオムシの類ではビセイインコ、ゴシキセイガイインコが各1番ずつ入りました。ペンギンの類ではケープペンギン2羽、イワトビペンギン4羽が入り、ペンギン舎も一段とにぎやかになりました。

サイチョウ類はオオサイチョウが1羽入って2羽になり、ナナミゾサイチョウ、サイチョウ(ニカクサイチョウ)各1番が入りました。



ハトではチョウショウバト2番、キンミノバト1番が入りました。

哺乳類ではあまり珍しい種類は入りませんでした。トムソンガゼル1頭(オス)、ハナジロゲノン5頭、パタスザル2頭、トカラヤギ2頭などです。

#### \*1974年の交換動物

今年は中国と2件の動物交換がありました。その1つ是北京動物園との交換で、当園からはアカカンガルー1番とルリコンゴウインコ2番を贈り、北京からはモウコレイヨウ1番、タンチョウヅル1羽(メス)を贈って来ました。モウコレイヨウは中国か



ら戦後初の偶蹄獣の輸入ということで、30日間もの長期間の検査を受け、9月6日当園に到着しました。タンチョウヅルは当園に前から居る独身のオスの花嫁としておこし入れて来たもので、来年早々位から同居させる予定です。

もう1つは上海市西郊公園との動物交換で、当園からはアシカ1番とフンボルトペンギン2番を贈り、上海からはクロオオカミ、マナヅル各1番を贈って来ました。クロオオカミ、マナヅル共に非常に仲が良く、モウコレイヨウ、タンチョウヅルと共に来年は日中友好の二世をぜひ誕生させて欲しいものです。なお、モウコレイヨウ、クロオオカミ共、日本へは初めて渡来したという珍しい動物です。



#### \*1974年に寄贈を受けた動物・保護した動物

今年も又、多くの市民の方からいろいろな動物を頂きました。今年1月から11月末現在で受付件数は305件、88種430点の多きに達しています。その中からまず寄贈を受けた主な動物をあげてみますと、哺乳類ではアシカ(オタリア)1番を1月に頂きました。入園当時は当園に居るカリフォルニアアシカと比べてかなり小さくて心配させられましたが、最近ではその差も感じられないほど成長して来ています。4月にはフクロテナガザル(シャーマン)とシロテナガザル、サイクスザル各1頭の寄贈がありました。フクロテナガザル(オス)は当園では今まで飼育されたことがなく、全国の動物園でもあまり飼育されていない珍しいサ





ルです。入園当時はまだミルクを飲んでいましたが、最近はかなり大きくなって特徴的なふくろも大きくふくらんせるようになりました。9月にはオセロット(メス)の寄贈がありました。日本の



動物園では現在飼育されていない毛皮の美しいネコ科の動物です。最近やっと動物園の環境にもなれてきたようです。

鳥類ではカツオドリの寄贈がありました。この鳥は熱帯地方に分布するもので、たまたま航海中の鉱石運搬船に飛びこみ大阪まで来てしまったものです。



その他ハヤブサの仲間のカラカラという鳥の寄付もありました。あまり珍しくはありませんが、インコ類ではオオバタン、コンゴウインコ、キボウシインコ、コバタン各1羽などの寄付がありました。

ハ虫類ではミズオオトカゲ1頭、トゲオオトカゲ2頭、リュウキュウキノボリトカゲ3頭などの寄付がありました。

#### \*1974年に死亡した動物

生あるものは必ず死亡するものですが、今年もいくつかの大きな動物が亡くなりました。まず2月にクロサイのオス(推定12才)が死亡しました。死因は腸管粘膜に赤血球に含まれている鉄分が多量に沈着したため、腸の消化吸収作用が悪くなり衰弱し

て死亡したものです。8月にはトラ(メス)が死亡しました。このトラは昭和38年入園以来7回も出産している優秀なトラだったのですが、8月2日のお産の際、2頭は無事生まれたのですが、3頭目の胎児が子宮を破裂させて腹腔内に浸漬し、急性腹膜炎を起して死亡したものです。10月にはキリン(メス)のリリーが胃内に多量のビニール類をつまらせて胃腸障害をおこして死亡しました。お客さんの与えるお菓子類の包装は胃内で消化されず、しかも排泄もされないため胃内に次々にたまり、最後には餌も食べられない状態になってしまうのです。今後動物には絶対餌をやらないで欲しいものです。

#### \*1974年の主なできごと

◎1月1日～1月15日まで世界のトラのおもちゃ展(11ヶ国172点)が開かれました。

◎3月18日～24日の動物愛護週間中、総合家畜動物慰霊祭を行い、又世界の家畜おもちゃ展(32ヶ国130点)も開きました。

◎南園の日本庭園の1隅に弁当広場が、北園の駐車場の横にはファミリー広場がそれぞれ新しく設けられ、一面に芝生が植えられました。

◎4月2日付で動物園が一類の事業所(部、扱い)に昇格し、飼育課、管理課が新たにできました。

◎4月28日～5月12日まで春の動物園まつりが行われ、期間中は動物の無料相談コーナー、オランウータン、チンパンジーの演技、幼稚園児の遊技、人形劇、かわいい動物の広場、ゾウの目方を計る会などが催されました。ゾウの目方はヒロコが1340kg(昨年より280kg増)、ユリコが3780kg(130kg増)でした。

◎6月から全国の公立動物園では初めての休園日が実施されました。(毎月第三月曜日が休園日)

◎7月2日でキーウイの飼育歴が満4年になりました。

◎中国の北京動物園と動物交換が実現し、タンチョウヅル1羽と、モウコレイヨウ1番が8月5日によって来ました。

◎続いて8月27日には上海市西郊公園との動物交換でクロオオカミ、マナヅル各1番が来ました。

◎10月27日～11月10日の間秋の動物園まつりが行われました。

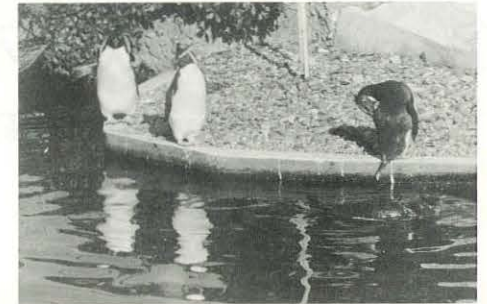
◎10月1日にボイラーの火入れ式を行い、暖房を開始しました。

(編集部・宮下 実)

## 動物園ニュース

#### ☆カルガモ飛来

10月中旬、南園の日本庭園の池にカルガモが飛来し始めました。例年11月末頃にやって来るのですが今年は少し早いようです。昭和45年にこの池で6羽自然ふ化したカルガモが、羽を切っていないために毎年シベリアの方へ渡って行き、毎冬里帰りしてくるようになったもので、年々その数が増えています。今年が多い時で30羽近くも池を泳いでいるのが見られます。



動物園への暖房本格化

# 夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



上本町近鉄 TEL.(06)779-1231

アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111

奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111



東京近鉄



その他フクロウが5羽、チョウショウバト4羽、キンミノバト2羽、アンデストキ1羽、イウトビペンギン4羽が入園しました。



年は元旦、午前9時半から午後4時半まで平常通り開園いたします。

◎毎月第三月曜日は動物園の休園日です。12月は16日が休園日になります。

◎元旦に入園されるお客様(先着500名様)にウサギのカレンダーをプレゼントします。

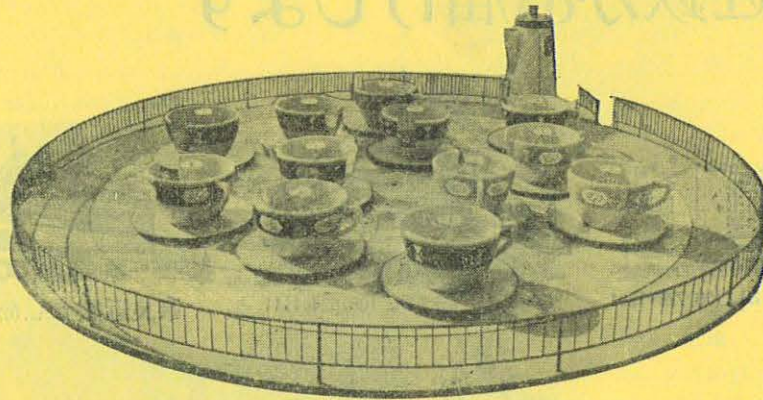


ルです。入園当時はまだミルクを飲んでいたので、最近はかなり大きくなって特徴的などのふくろも大きくふくらんせるようになりました。9月にはオセロット（メス）の寄贈がありました。日本の



て死亡したものです。8月にはトラ（メス）が死亡しました。このトラは昭和38年入園以来7回も出産している優秀なトラだったのですが、8月2日のお産の際、2頭は無事生まれたのですが、3頭目の胎児が子宮を破裂させて腹腔内に浸漬し、急性腹膜炎を起して死亡したものです。10月にはキリン（メス）のリリーが胃内に多量のビニール類をつまらせて胃腸障害をおこして死亡しました。お客さんの与えるお菓子類の包装は胃内で消化されず、しかも排泄も

## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

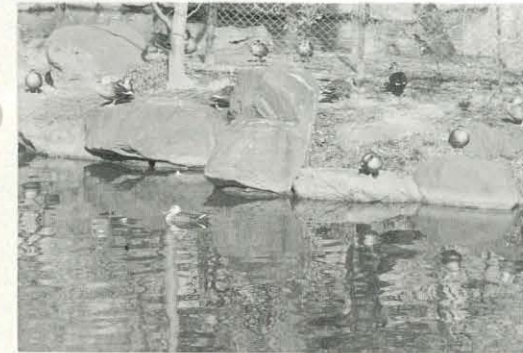
上にあるものは必ず死亡するものですか、今年も又いくつかの大きな動物が亡くなりました。まず2月にクロサイのオス（推定12才）が死亡しました。死因は腸管粘膜に赤血球に含まれている鉄分が多量に沈着したため、腸の消化吸収作用が悪くなり衰弱し

れました。  
◎10月1日にボイラーの火入れ式を行い、暖房を開始しました。

(編集部・宮下 実)

### ☆カルガモ飛来

10月中旬、南園の日本庭園の池にカルガモが飛来し始めました。例年11月末頃にやって来るのですが今年はいくぶん早いです。昭和45年にこの池で6羽自然ふ化したカルガモが、羽を切っていないために毎年シベリアの方へ渡って行き、毎冬里帰りしてくるようになったもので、年々その数が増えています。今年はいくぶん多い時で30羽近くも池を泳いでいるのが見られます。

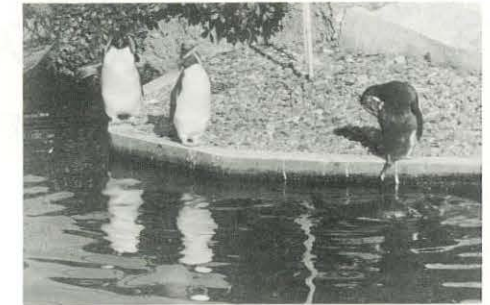


### ☆新着動物

11月に新しく入った動物をお知らせします。まずアフリカ中央部に分布するハナジロゲノンが5頭入りしました。熱帯産の動物だけに日本の寒さには充



分な注意がいります。鳥では日本の動物園では珍しいインドキコウが1番入りしました。現在水禽放養舎に展示していますが、うまくいけば来年には産卵が見られるかもしれません。その他クビワコガモが5羽、チョウショウバト4羽、キンミノバト2羽、アンデストキ1羽、イワトビペンギン4羽が入園しました。



### ☆動物舎への暖房本格化

きびしい冬の寒さがもう目の前ですが、熱帯地方産の動物や寒さに弱い動物には暖房を入れています。サイ舎とキリン舎は赤外線ランプ、パネルヒーターなどで暖房し、それ以外の動物には重油ボイラーによって熱いスチームを各舎に送っています。

#### 各動物舎の温度

ハ虫舎	25~30°C	カバ舎(室内プール)	15°C
サイ舎	15~20°C	チンパンジー舎	15°C
キリン舎	13~15°C	ゴリラ舎	15°C

### ☆オオミズナギドリの保護

今年も例年通りオオミズナギドリが保護され、当園で治療と世話をしています。11月6日に八尾で1羽保護されたのを初めとして11月23日までに13羽持ち込まれてきました。大半が幼鳥で体力がないため墜落して市民の方々に捕えられるらしく、小アジと栄養剤の強制さし餌を続けています。



### ☆エトに因む世界のウサギのおもちゃ展

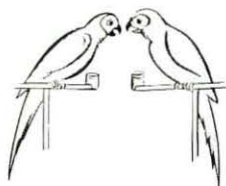
新春の天王寺動物園ではエトにちなんでウサギ舎に「しめ縄」の飾り付けと鏡もちを供えます。また、世界のウサギのおもちゃ展と銘うって、日本各地の郷土玩具のウサギ150点を始めとして、世界15ヶ国50点のウサギのおもちゃを展示します。  
会場……天王寺動物園冷房ペンギン舎  
会期……昭和50年1月1日～1月15日  
出展者……おもちゃの動物園長 吉田平七郎

#### \*お知らせ\*

◎12月29、30、31日は休園させていただきます。新年は元旦、午前9時半から午後4時半まで平常通り開園いたします。  
◎毎月第三月曜日は動物園の休園日です。12月は16日が休園日になります。  
◎元旦に入園されるお客様（先着500名様）にウサギのカレンダーをプレゼントします。

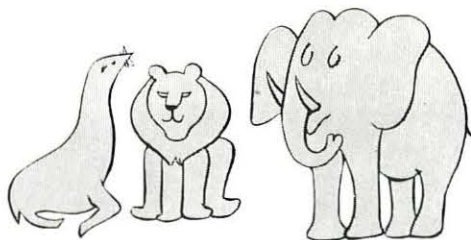


なきごえ 昭和49年12月15日発行 (毎月1回15日発行) 第10巻第12号(通巻113号)  
 編集／大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 発行人／大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201  
 印刷所／株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各140cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

〈小谷 潔・林 邦彦・大野尊信・米田敏光・樽本 勲・田上 勝〉  
 〈中川道朗・農本武志・深井和美・東 政宏・宮下 実〉